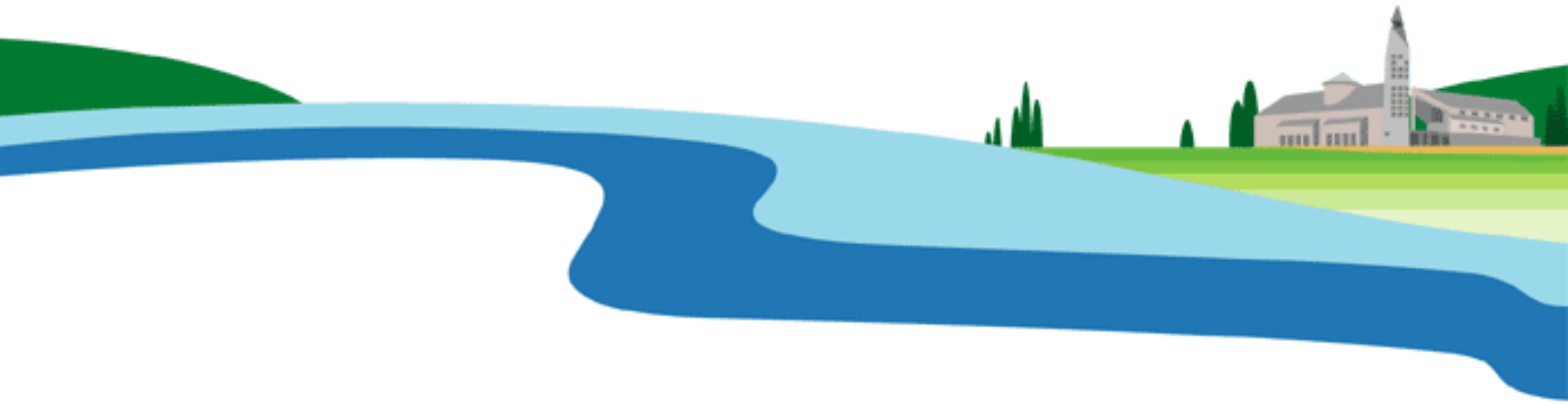
滋賀県立大学



滋賀県立大学
平成２９（２０１７）年度

講義概要（シラバス）

※この冊子は、Web 版シラバスを PDF に変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo（https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/）で、ご確認ください。

目　　次

1601040 インターンシップＣ 就職指導担当教員 前期集中 ・・・ 1
1601050 インターンシップＤ 就職指導担当教員 前期集中 ・・・ 3
1601053 インターンシップＦ 就職指導担当教員 前期集中 ・・・ 5
1602230 ナノテクノロジーキャリアアップ特論 柳澤　淳一 前期 ・・・ 7
1900010 エコ・テクノロジー特論/ 鵜飼　修 後期 ・・・ 9
1900020 コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ/ 鵜飼　修 通年 ・・・ 11
1900030 コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ/ 鵜飼　修 通年集中 ・・・ 13
1900040 コミュニティ・マネージメント特論/ 上田　洋平 後期 ・・・ 15
1900050 地域再生学特論/ 上田　洋平 前期 ・・・ 17
1900060 地域再生システム特論 鵜飼　修 前期集中 ・・・ 19
1900070 地域診断法特論/ 鵜飼　修 前期 ・・・ 21
1900080 地域デザイン特論Ａ 鵜飼　修 前期前半 ・・・ 23
1900090 地域デザイン特論Ｂ 鵜飼　修 前期前半 ・・・ 25
1900100 地域マネジメント特論Ａ 鵜飼　修 前期後半 ・・・ 27
1900110 地域マネジメント特論Ｂ 鵜飼　修 前期後半 ・・・ 29
1900120 成熟社会デザイン特論 上田　洋平 前期 ・・・ 31
1900130 地域再生学特論 上田　洋平 後期前半 ・・・ 33
1900140 地域イノベーション特論 上田　洋平 後期後半 ・・・ 35
1900150 サスティナブルデザイン特論 鵜飼　修 後期 ・・・ 37
1900160 コミュニティ・プロジェクトⅠ 鵜飼　修 前期 ・・・ 39
1900170 コミュニティ・プロジェクトⅡ 鵜飼　修 後期 ・・・ 41
1900180 実践現場体感特別講義Ⅰ 鵜飼　修 前期集中 ・・・ 43
1900190 実践現場体感特別講義Ⅱ 鵜飼　修 後期集中 ・・・ 45

講義名	インターンシップＣ							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601040	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	503CAR501								

授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を育む。同時に、自己の適性や志向に照らして進路を考える機会とする。

この授業は以下の３セクションから構成される。
１）事前学習（学内）：事前学習レポートの提出と事前研修Ⅰ・Ⅱを受ける。
２）就業体験（学外）：同一企業・団体等で５日間以上９日間以下の就業体験をする。
３）事後学習（学内）：実習報告レポートの提出と報告会に出席する。

大学と受入企業・団体が、協定書（覚書）を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本として自由科目の単位認定をする。

到達目標

（１）　就業体験を通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を身につける。
（２）　自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
（３）　専門知識の有用性や学習意識を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	５０％	１）　事前学習レポート ①　企業研究　②　インターンシップ志望動機・目的 ２）　実習報告レポート
上記以外	５０％	１）実習日誌 ２）受入先担当者報告書（評価書）

事前研修Ⅰ・Ⅱ、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の４点を総合して評価する。

授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を明確にすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集（報告会で配付）

前提学力等

履修資格

講義名	インターンシップＣ							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601040	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	503CAR501								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	インターンシップガイダンス	本学のインターンシップについて知る
第2回	面談・書類提出	マッチングを進めるために面談のうえ書類提出する
第3回	事前研修Ⅰ	就業体験前の指導
第4回	事前研修Ⅱ	就業体験前の指導
第5回	就業体験	受入企業・団体の実習プログラムによる実習
第6回	インターンシップ報告会	インターンシップ報告とグループディスカッション

担当者から一言

講義名	インターンシップＤ							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601050	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	503CAR502								

授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を育む。同時に、自己の適性や志向に照らして進路を考える機会とする。

この授業は以下の３セクションから構成される。
１）事前学習（学内）：事前学習レポートの提出と事前研修Ⅰ・Ⅱを受ける。
２）就業体験（学外）：同一企業・団体等で１０日間以上１４日間以下の就業体験をする。
３）事後学習（学内）：実習報告レポートの提出と報告会に出席する。

大学と受入企業・団体が、協定書（覚書）を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本として自由科目の単位認定をする。

到達目標

（１）　就業体験を通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を身につける。
（２）　自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
（３）　専門知識の有用性や学習意識を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	５０％	１）　事前学習レポート ①　企業研究　②　インターンシップ志望動機・目的 ２）　実習報告レポート
上記以外	５０％	１）実習日誌 ２）受入先担当者報告書（評価書）

事前研修Ⅰ・Ⅱ、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の４点を総合して評価する。

授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を明確にすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集（報告会で配付）

前提学力等

履修資格

講義名	インターンシップD							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601050	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	503CAR502								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	インターンシップガイダンス	本学のインターンシップについて知る
第2回	面談・書類提出	マッチングを進めるために面談のうえ書類提出する
第3回	事前研修Ⅰ	就業体験前の指導
第4回	事前研修Ⅱ	就業体験前の指導
第5回	就業体験	受入企業・団体の実習プログラムによる実習
第6回	インターンシップ報告会	インターンシップ報告とグループディスカッション

担当者から一言

講義名	インターンシップＦ							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601053	単位数	3	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	503CAR503								

授業概要

キャリア教育として実施し、学生が企業や団体において就業体験することを通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を育む。同時に、自己の適性や志向に照らして進路を考える機会とする。

この授業は以下の３セクションから構成される。
１）事前学習（学内）：事前学習レポートの提出と事前研修Ⅰ・Ⅱを受ける。
２）就業体験（学外）：同一企業・団体等で１５日間以上の就業体験をする。
３）事後学習（学内）：実習報告レポートの提出と報告会に出席する。

大学と受入企業・団体が、協定書（覚書）を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本として自由科目の単位認定をする。

到達目標

（１）　就業体験を通して、望ましい職業観・勤労観および社会性を身につける。
（２）　自分の適性や志向に照らし進路を考え、キャリア意識を高める。
（３）　専門知識の有用性や学習意識を高める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		なし
レポート課題	５０％	１）　事前学習レポート ①　企業研究　②　インターンシップ志望動機・目的 ２）　実習報告レポート
上記以外	５０％	１）実習日誌 ２）受入先担当者報告書（評価書）

事前研修Ⅰ・Ⅱ、就業体験、報告会のすべてに出席することを前提に、上記の４点を総合して評価する。

授業外学習

申込時に、事前学習レポートを作成する。実習希望先の企業・団体について調べ、志望理由・目的を明確にすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

ビジネスマナー講座テキスト

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

インターンシップ実習レポート集（報告会で配付）

前提学力等

履修資格

講義名	インターンシップＦ							担当教員	就職指導担当教員
講義コード	1601053	単位数	3	開講期	前期集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	503CAR503								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	インターンシップガイダンス	本学のインターンシップについて知る
第2回	面談・書類提出	マッチングを進めるために面談のうえ書類提出する
第3回	事前研修Ⅰ	就業体験前の指導
第4回	事前研修Ⅱ	就業体験前の指導
第5回	就業体験	受入企業・団体の実習プログラムによる実習
第6回	インターンシップ報告会	インターンシップ報告とグループディスカッション

担当者から一言

講義名	ナノテクノロジーキャリアアップ特論							担当教員	柳澤　淳一／一宮　正義
講義コード	1602230	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	563CAR501								

授業概要

ナノテクノロジー関連分野で豊富な学識と経験を持つ社会人を各回ごとに講師に招いて大阪大学で開講される「ナノテクキャリアアップ特論」の講義を、ライブ配信システムを用いて本学でも新たなスタイルの講義として開講し、講義を聴くとともに講師への質疑応答をその場で行なう。

到達目標

(1)社会におけるナノテクノロジーの活用や課題の最先端の実状が理解できる。
(2)日々の学業や研究活動の位置付け、あるいは社会におけるナノテクノロジーの重要性が理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	75	各回の講義から自身が学んだ内容等のレポートを毎回課し、本学の担当者が評価する。
上記以外	25	最低１回は、講義の中で講師に質問すること。

出席が10回に満たない場合は評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ナノテクノロジーキャリアアップ特論							担当教員	柳澤　淳一／一宮　正義
講義コード	1602230	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	563CAR501								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	自然に学ぶナノテク	ナノテクとインフォマティクスによるバイオミメティック（生物模倣）の進展について講義する。
第2回	ナノテクと有機半導体	有機半導体で広がる新な世界　（照明、ディスプレイ、IoT）について講義する。
第3回	ナノテクの歴史	シリコン集積回路はこうしてナノテクになった、について講義する。
第4回	ナノテクとセラミックス	ナノテクが拓く新しい電子セラミックスの世界について講義する。
第5回	ナノテクとバイオ材料	ナノ構造を制御したバイオマテリアル材料（人工腎臓などに用いるナノ多孔体分離膜、血液成分吸着材料）について講義する。
第6回	ナノテクと放射光	放射光(SPring-8）の産業利用について講義する。
第7回	ナノテクとディスプレイ	ディスプレイを支える最新技術について講義する。
第8回	ナノテクとダイヤモンド創製	ナノ組織制御によるニューダイヤモンドの創製と実用化について講義する。
第9回	ナノテクと環境、太陽光発電	COP21合意で期待される太陽光電の現状と、変貌しつつある今後の技術について講義する。
第10回	ナノテクのMEMS応用	ナノ材料技術が切り拓くセンサおよびアクチュエータについて講義する。
第11回	ナノテクと観察技術	走査電子顕微鏡の高分解能化技術の進展と産業への貢献について講義する。
第12回	ナノテクとエレクトロニクス・エネルギー	エレクトロニクスとエネルギー分野におけるナノテクノロジーの活用と課題について講義する。
第13回	鉄鋼材料のナノレベルでの評価	ナノスケール解析が切り拓く鉄鋼材料の可能性について講義する。
第14回	ナノテクと産業化	機能性材料の産業化について講義する。
第15回	ナノ材料の安全性	ナノ材料の安全性評価の現状について講義する。

担当者から一言

講義名	エコ・テクノロジー特論/							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900010	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT605								

授業概要

持続可能な社会や地球環境、その社会・環境において求められる知識や技術、よりよい社会・環境を創造するための知識や技術を学ぶ。
授業は本学教員によるオムニバス形式であり、様々なジャンルにおける基礎知識、最新の動向、最先端の技術、手法について学修する。

到達目標

(1)我が国における地域資源の現状について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
(2)地域資源の活用方法について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
(3)未来を拓く基礎技術について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
(4)再生可能エネルギーの特徴と近年の動向について説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	エコ・テクノロジー特論/							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900010	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT605								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	サスティナブルデザイン総論	
第2回	林業	滋賀県における森林バイオマス活用
第3回	里山	日本の原風景としての『里山』に関する知識を学ぶ。
第4回	農業	国土を保全する『持続可能な農業』に関する知識を学ぶ。
第5回	産業	持続可能な産業』の考え方、あり方について学ぶ。
第6回	環境建築デザイン１	建築におけるサスティナブルデザイン、環境共生デザイン
第7回	環境建築デザイン２	建築における木材利用
第8回	生活デザイン１	地域活性化などにおける地域資源活用の手法について学ぶ。
第9回	生活デザイン２	地域資源を活用したデザイン手法について学ぶ。
第10回	未来を拓く基礎技術１	有機・無機材料
第11回	未来を拓く基礎技術２	機械工学
第12回	未来を拓く基礎技術３	電気・電子・情報工学
第13回	再生可能エネルギー１	再生可能エネルギーの特徴、活用手法について学ぶ。
第14回	再生可能エネルギー２	滋賀県のエネルギー政策と県内での取組事例
第15回	サスティナブルデザインの実践	まとめとディスカッション

担当者から一言

講義名	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ/							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900020	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT601								

授業概要

地域での実践を通じて、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。担当する教員のゼミに所属し、月に1回をめどに指導を受ける。
受講生は、自身の有する地域課題をテーマに、その解決等のプロジェクトを設定し、担当教員の指導を受けながら実践を試みる。授業は前期Ⅰ、後期Ⅱとし、それぞれに報告の機会を設ける。成績評価は、目標管理シートを用いて、プロジェクトの到達目標、自分自身のスキルアップの目標を設定し、成果報告時にゼミ担当教員からの評価を受ける。成果報告の発表でのプレゼンテーション能力も評価に加味される。
ゼミナールの日時は、原則事務局発行のスケジュール表通りとするが、教員と受講生の日程調整により柔軟に対応する。受講生の実践現場への教員の訪問もゼミ指導に含む。

★本科目の単位取得には、新カリキュラムの「コミュニティ・プロジェクトⅠ」および「コミュニティ・プロジェクトⅡ」を併せた通年の受講が必要である。

到達目標

(1)地域特性を把握し、プロジェクトを適切に推進することができる。
★詳細は各自の目標管理シートによる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	目標管理シートにおける評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅰ/							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900020	単位数	2	開講期	通年	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT601								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	プロジェクトの目標設定	目標管理シートの作成
第2回	プロジェクト進捗報告	
第3回	プロジェクト進捗報告	
第4回	プロジェクト進捗報告	
第5回	プロジェクト進捗報告	
第6回	成果報告会	
第7回	成果報告会	
第8回	成果報告会	
第9回	プロジェクトの目標修正	
第10回	プロジェクト進捗報告	
第11回	プロジェクト進捗報告	
第12回	プロジェクト進捗報告	
第13回	プロジェクト進捗報告	
第14回	成果報告会	
第15回	成果報告会	
第16回	成果報告会	

担当者から一言

講義名	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ/							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900030	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT602								

授業概要

新しい地域社会を切り拓く、地域イノベーションの先進的な取り組み、萌芽的な取り組みの現場を訪問し、実践者からの講義を受け、現場の体感と併せてそのノウハウを修得する。訪問は半期につき、県外1泊二日、県内1泊二日の2回で8事例程度を学修する。（通期で16事例程度）
平成29年度の県外訪問先は、葉っぱビジネスで著名な徳島県上勝町（前期）、岡山県西粟倉村の村落エナジー（後期）などを予定している。
県外はバスをチャーターして訪問する。県内は教員の車等で引率する。視察料、講師謝金、バスチャーター、教員の車の交通費は公費で負担するが、各自の宿泊費、食費は各自での負担となる。
★スケジュールは添付の通り。
★本科目の単位修得には、新カリキュラムの「実践現場体感特別講義Ⅰ」（前期）および「実践現場体感特別講義Ⅱ」（後期）を併せて履修することが必要となる。

到達目標

(1)地域イノベーションの現場について、具体的事例の概要を説明できる。
(2)地域イノベーションの現場について、実践者による実践ノウハウのポイントを説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	各回のレポート×現場数で評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ/							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900030	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT602								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	実践現場１	実践現場での実践者による講義
第2回	実践現場２	
第3回	実践現場３	
第4回	実践現場４	
第5回	実践現場５	
第6回	実践現場６	
第7回	実践現場７	
第8回	実践現場８	
第9回	実践現場９	
第10回	実践現場１０	
第11回	実践現場11	
第12回	実践現場12	
第13回	実践現場１３	
第14回	実践現場14	
第15回	実践現場15	
第16回	実践現場１６	

担当者から一言

講義名	コミュニティ・マネージメント特論/							担当教員	上田　洋平
講義コード	1900040	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT604								

授業概要

国連においても「SDGｓ（持続可能な開発目標）」が掲げられているように、単に開発・成長を目指すだけの時代は終わり、持続（未来）可能性が問われる時代である。限りある資源を活かしながら、人と自然、人と人とがいかに共生し、ともにその可能性を実現しつつ生きていくか。そのための重要なキーワードの一つが「イノベーション」である。

この講義では持続可能な共生社会の構築に必要なイノベーションの手法について、経済、環境、資源と人材等様々な角度から議論する。地域イノベーションという点で言えば、滋賀はそのユニークな事例を有する場所である。そこで、県内各地・各分野で活躍し実績を上げている事業やそれを支える考え方、実践手法等のエッセンスについて当事者が直接紹介するケーススタディの形で学ぶ。

※当講義はWEB開講科目である。

到達目標

（1）地域イノベーションの概念と意義、持続可能な共生社会実現に向けた潮流と展望について理解し説明できる。
（2）地域イノベーションの具体的事例を紹介することができる。
（3）イノベーションの仕掛けと仕組み、イノベーション創発を促す場と条件、イノベーション人材に必要な心構えや技能について理解し説明できる。
（4）地域資源やコミュニティの特性を踏まえたイノベーティブで持続可能な共生社会づくりにつながる事業を提案できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標に示す（1）～（4）については、演習問題（レポート）により評価する。
上記以外		

授業外学習

講義VTR（講師1人につき20分間の講義）を視聴するウェブ講義である。受講生はビデオ視聴ごとに演習問題を解いて提出し、その答案等をもとに採点・成績評価する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	コミュニティ・マネージメント特論/							担当教員	上田　洋平
講義コード	1900040	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT604								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域イノベーション総論	①－1：地域イノベーションとは何か ①－2：イノベーション創発の場と条件
第2回	地域資源を活かした創エネと市民自治	②－1：地縁を活かした創エネ事業　　講師；松本長治（みどり豊かな清流の郷杉野） ②－2：環境と福祉のイノベーション　　講師：溝口　弘（一社・コナン市民共同発電所プロジェク
第3回	里山・田園イノベーション	③－1：都市とつながる農のイノベーション　講師：石津大輔（針江のんきぃふぁーむ） ③－2：自然が相棒のブランドイノベーション　講師：堀　彰男（せせらぎの郷）
第4回	暮らしをつくる地域イノベーション	④‐１：持続可能な住まいをつくる　講師：清水陽介（上山田どっぽ村） ④‐2：イノベーション＋デザイン　講師：中野優（デザイン・クリエイティブセンター神戸KIITO）
第5回	移住・交流、観光が促す地域イノベーション	⑤－1：空家を活かした観光によるまちづくり　講師：吉井茂人（長浜まちづくり株式会社） ⑤－2：アーティスト・職人との連携による地域づくり　講師：西川唱子（NPO法人結びめ）
第6回	地域まるごとイノベーション	⑥－1：多様なステークホルダーを巻き込む手法 ⑥－2：様々な制度や仕組みの活用の仕方

担当者から一言

講義名	地域再生学特論/							担当教員	上田　洋平
講義コード	1900050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT606								

授業概要

地域固有の自然・歴史・文化に根差した地域再生の思想、仕組み、仕掛け（手法）及びそれを担う人材について、滋賀県内各地で現に展開中のナマの取り組みを取り上げ、事例研究により学ぶとともに、各地の取り組みを主導し支えるキーパーソンとの議論を通じて理解を深める。併せて、地域再生を担うリーダー・コーディネーターとしての「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割について議論し学ぶ。

到達目標

（１）自然、歴史、文化の特性や地域の文脈に即して生じる様々な地域課題の概要とその解決の方向性について理解し説明できる。
（２）風土に根差した地域再生の取り組みの具体例についてその仕組みや特徴を分析し紹介できる。
（３）地域再生に取り組む「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割、求められる能力について、個々の具体的事例から抽出し説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	到達目標（１）については、期末試験（筆記式）にり評価する。
レポート課題	40	到達目標（２）については、授業毎に課すレポートにより評価する。
上記以外	30	到達目標（３）については、授業時間内に行うワークショップの成果をもとに評価する。

授業外学習

授業で取り上げる地域やゲスト講師が関わる事業・イベントについて、積極的に訪問したり参加することを薦める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域再生学特論/							担当教員	上田　洋平
講義コード	1900050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT606								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	総論「地域再生のフレームワーク 」	上田洋平
第2回	地域コミュニティを問い直す	ゲスト講師
第3回	中心市街地の再生	ゲスト講師
第4回	中山間地域の再生	ゲスト講師
第5回	都市農村交流による地域再生	ゲスト講師
第6回	地域再生のリーダーシップ	ゲスト講師
第7回	社会投資市場の形成と地域再生	ゲスト講師
第8回	まとめ・ＷＳ・地域再生とコミュニティ・アーキテクト	上田洋平

担当者から一言

講義名	地域再生システム特論							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／轟　慎一
講義コード	1900060	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT607								

授業概要

地域本来の力や資源を活かした地域づくり・地域再生を実現するための考え方と手法を実践的に学ぶ。具体的な地域再生の事例を参考に、フィールドワークやワークショップの企画、実施、地域再生策の提案までの過程に主導的に取組む。こうした実践を通して、フィールドワークやワークショップの技法、ファシリテーションの手法、地域課題の把握から解決策の提案までのノウハウを修得する。

１）夏期３日間の集中講義として行う（フィールドワークはこのうち１日）。
２）学生、院生（社会人学生含む）混成によるチームを編成し、フィールドワークやワークショップに臨む。
３）フィールドワーク先や課題は地域の行政等から紹介・提起を受け、ホットでリアルなフィールドや課題に挑む。
４）地域住民や市民団体、地域の行政職員等、地域の方々と共に歩き、考え、具体的な企画・提案を作成する。

到達目標

（1）地域課題の把握から解決に向けた計画の作成、解決に向けたアクションとその評価・改善までの一連の流れを理解し説明することができる。
（2）地域の関係者とのコミュニケーションを通じて地域の現状・課題を的確に把握することができる。
（3）地域資源や地域課題の現状に即した適切なフィールドワークやワークショップを企画し実施することができる。
（4）地域の関係者の意見を適切に引き出し整理して適確な地域再生提案を作成することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に示す（1）については中間レポート（30%）により、（2）（3）（4）については最終レポート（50%）及びプレゼンテーション（20%）により評価する。

授業外学習

フィールドワーク先地域関係者及びワークショップ参加者のコーディネート、提案作成等、授業時間外での活動を必要に応じて実施する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域再生システム特論							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平／轟　慎一
講義コード	1900060	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT607								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	フィールドワーク先は7月に決定する。
第2回	滋賀の地域づくりの文脈と展望	
第3回	産官学民協働の地域づくり	
第4回	地域再生の手法1	
第5回	地域再生の手法2	
第6回	フィールドワーク・ワークショップの企画①	
第7回	フィールドワーク・ワークショップの企画②	
第8回	現地講義1　フィールドワーク・ワークショップの運営	
第9回	現地講義2　フィールドワーク・ワークショップの運営	
第10回	グループ討議1　ファシリテーション	
第11回	グループ討議2　ファシリテーション	
第12回	地域再生の提案1　合意形成	
第13回	地域再生の提案2　合意形成	
第14回	プレゼンテーション	
第15回	まとめと講評	

担当者から一言

講義名	地域診断法特論/							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900070	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT603								

授業概要

★本講義は科目名が変更となり、本科目の単位修得のためには、「地域デザイン特論Ａ」および「地域マネジメント特論Ａ」の2科目を履修する必要があります★

＜地域デザイン特論Ａ＞
地域資源を発見・発掘し、地域のビジョン創造につなげる地域デザイン手法について基礎的な手法である「地域診断法」学ぶ。
＜地域マネジメント特論Ａ＞
地域イノベーションを実践するための地域でのマネジメント手法およびコミュニティ・ビジネス等の事業創発手法について学ぶ。

到達目標

＜地域デザイン特論Ａ＞
(1)地域診断をふまえた地域デザインの方法を説明することができる。
(2)近江の地理学的、歴史的、産業的、生態的特性を説明することができる。
(3)地域診断をふまえた地域デザインを提案することができる。
＜地域マネジメント特論Ａ＞
(1)マネジメント、地域環境経営、ファンドレイジング、デザイン思考の理論と概要を理解し説明することができる。
(2)コミュニティ・ビジネス、コミュニティ・マネジメントの理論と実践手法を説明することができる。
(3)地域資源やコミュニティの特性をふまえた地域ビジネスプランを提案できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	学期末試験は学力を確認するためのものであり、100点満点で60点以上を合格とし、合格したものにのみ単位を付与する。
レポート課題	60	各回のレポートを5点満点で評価する。
上記以外	40	スクーリングにおける提案、プレゼンテーションを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域診断法　鳥の目、虫の目、科学の目	近江環人地域再生学座編	新評論	4794808909
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域診断法特論/							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900070	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	592CAT603								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域デザインと地域診断法	1：地域デザインと地域診断の意義 2：地域診断の手法
第2回	エコロジカルプランニングによる地域診断から地域デザインへ	1：エコロジカルプランニングの概要 2：エコロジカルプランニングによる地域診断
第3回	地域診断事例の解読	1：1×4 簡易マトリックス手法 2：調査形式
第4回	近江の歴史的特性	1：歴史的特性把握の基礎知識 2：近江の歴史的特性
第5回	近江の産業的特性	1：経済と環境 2：滋賀県掲載の特徴
第6回	近江の生態的特性	1：生態的特性把握の基礎知識 2：近江の生態的特性
第7回	地域診断の実践手法	・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。 ・テーマ「地域診断をふまえた地域デザイン」
第8回	地域デザインの実践手法	・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。 ・テーマ「地域診断をふまえた地域デザイン」
第9回	地域マネジメント総論	1：マネジメントの基礎知識 2：非営利組織のマネジメント
第10回	地域環境経営論	1：環境経営の基礎知識 2：エコプレミアムの可能性
第11回	地域における起業のすすめ　～起業の課題と支援～	1：企業活動と富の創造、現況と課題 2：起業の事例と事業化の課題
第12回	ＮＰＯ活動のマネジメント	1：NPOの基礎知識 2：NPOの設立と運営方法
第13回	コミュニティ・ビジネス論	1：コミュニティ・ビジネスの基礎知識 2：コミュニティ・ビジネスの創造手法
第14回	コミュニティ・マネジメント理論と実践	1：人を動かす理論 2：人に動かされる理論
第15回	コミュニティ・ビジネス事業スキームの作成　その1	・スクーリング（地域マネジメント特論Bと合同）。 ・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。
第16回	コミュニティ・ビジネス事業スキームの作成　その２	・スクーリング（地域マネジメント特論Bと合同）。 ・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。

担当者から一言

講義名	地域デザイン特論Ａ							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900080	単位数	1	開講期	前期前半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域資源を発見・発掘し、地域のビジョン創造につなげる地域デザイン手法について基礎的な手法である「地域診断法」学ぶ。

到達目標

(1)地域診断をふまえた地域デザインの方法を説明することができる。
(2)近江の地理学的、歴史的、産業的、生態的特性を説明することができる。
(3)地域診断をふまえた地域デザインを提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	学期末試験は学力を確認するためのものであり、100点満点で60点以上を合格とし、合格したものにのみ単位を付与する。
レポート課題	60	各回のレポートを10点満点で評価する。
上記以外	40	スクーリングにおける提案、プレゼンテーションを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域診断法　鳥の目、虫の目、科学の目	近江環人地域再生学座編	新評論	4794808909
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域デザイン特論Ａ							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900080	単位数	1	開講期	前期前半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域デザインと地域診断法	1：地域デザインと地域診断の意義 2：地域診断の手法
第2回	エコロジカルプランニングによる地域診断から地域デザインへ	1：エコロジカルプランニングの概要 2：エコロジカルプランニングによる地域診断
第3回	地域診断事例の解読	1：1×4 簡易マトリックス手法 2：調査形式
第4回	近江の歴史的特性	1：歴史的特性把握の基礎知識 2：近江の歴史的特性
第5回	近江の産業的特性	1：経済と環境 2：滋賀県掲載の特徴
第6回	近江の生態的特性	1：生態的特性把握の基礎知識 2：近江の生態的特性
第7回	地域診断の実践手法	・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。 ・テーマ「地域診断をふまえた地域デザイン」
第8回	地域デザインの実践手法	・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。 ・テーマ「地域診断をふまえた地域デザイン」

担当者から一言

講義名	地域デザイン特論Ｂ							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900090	単位数	1	開講期	前期前半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域資源を発見・発掘し、地域のビジョン創造につなげる地域デザイン手法について基礎的な手法である「地域診断法」学ぶ。

★本講義はｗｅｂ講義です。添付ファイルの注意事項を一読してください。

到達目標

(1)地域診断をふまえた地域デザインの方法を説明することができる。
(2)近江の地理学的、歴史的、産業的、生態的特性を説明することができる。
(3)地域診断をふまえた地域デザインを提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	学期末試験は学力を確認するためのものであり、100点満点で60点以上を合格とし、合格したものにのみ単位を付与する。
レポート課題	60	各回のレポートを10点満点で評価する。
上記以外	40	スクーリングにおける提案、プレゼンテーションを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域診断法　鳥の目、虫の目、科学の目	近江環人地域再生学座編	新評論	4794808909
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域デザイン特論Ｂ							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900090	単位数	1	開講期	前期前半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域デザインと地域診断法	1：地域デザインと地域診断の意義 2：地域診断の手法
第2回	エコロジカルプランニングによる地域診断から地域デザインへ	1：エコロジカルプランニングの概要 2：エコロジカルプランニングによる地域診断
第3回	地域診断事例の解読	1：1×4 簡易マトリックス手法 2：調査形式
第4回	近江の歴史的特性	1：歴史的特性把握の基礎知識 2：近江の歴史的特性
第5回	近江の産業的特性	1：経済と環境 2：滋賀県掲載の特徴
第6回	近江の生態的特性	1：生態的特性把握の基礎知識 2：近江の生態的特性
第7回	地域診断の実践手法	・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。 ・テーマ「地域診断をふまえた地域デザイン」
第8回	地域デザインの実践手法	・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。 ・テーマ「地域診断をふまえた地域デザイン」

担当者から一言

講義名	地域マネジメント特論Ａ							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900100	単位数	1	開講期	前期後半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域イノベーションを実践するための地域でのマネジメント手法およびコミュニティ・ビジネス等の事業創発手法について学ぶ。

到達目標

(1)マネジメント、地域環境経営、ファンドレイジング、デザイン思考の理論と概要を理解し説明することができる。
(2)コミュニティ・ビジネス、コミュニティ・マネジメントの理論と実践手法を説明することができる。
(3)地域資源やコミュニティの特性をふまえた地域ビジネスプランを提案できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	学期末試験は学力を確認するためのものであり、100点満点で60点以上を合格とし、合格したものにのみ単位を付与する。
レポート課題	60	各回のレポートを10点満点で評価。
上記以外	40	スクーリングにおける提案、プレゼンテーションを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域マネジメント特論Ａ							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900100	単位数	1	開講期	前期後半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域マネジメント総論	1：マネジメントの基礎知識 2：非営利組織のマネジメント
第2回	地域環境経営論	1：環境経営の基礎知識 2：エコプレミアムの可能性
第3回	地域における起業のすすめ　～起業の課題と支援～	1：企業活動と富の創造、現況と課題 2：起業の事例と事業化の課題
第4回	ＮＰＯ活動のマネジメント	1：NPOの基礎知識 2：NPOの設立と運営方法
第5回	コミュニティ・ビジネス論	1：コミュニティ・ビジネスの基礎知識 2：コミュニティ・ビジネスの創造手法
第6回	コミュニティ・マネジメント理論と実践	1：人を動かす理論 2：人に動かされる理論
第7回	コミュニティ・ビジネス事業スキームの作成　その1	・スクーリング（地域マネジメント特論Bと合同）。 ・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。
第8回	コミュニティ・ビジネス事業スキームの作成　その２	・スクーリング（地域マネジメント特論Bと合同）。 ・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。

担当者から一言

講義名	地域マネジメント特論Ｂ							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900110	単位数	1	開講期	前期後半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域イノベーションを実践するための地域でのマネジメント手法およびコミュニティ・ビジネス等の事業創発手法について学ぶ。

★本講義はｗｅｂ講義です。添付ファイルの注意事項を一読してください。

到達目標

(1)マネジメント、地域環境経営、ファンドレイジング、デザイン思考の理論と概要を理解し説明することができる。
(2)コミュニティ・ビジネス、コミュニティ・マネジメントの理論と実践手法を説明することができる。
(3)地域資源やコミュニティの特性をふまえた地域ビジネスプランを提案できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	学期末試験は学力を確認するためのものであり、100点満点で60点以上を合格とし、合格したものにのみ単位を付与する。
レポート課題	60	各回のレポートを10点満点で評価。
上記以外	40	スクーリングにおける提案、プレゼンテーションを評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	地域マネジメント特論Ｂ							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900110	単位数	1	開講期	前期後半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域マネジメント総論	1：マネジメントの基礎知識 2：非営利組織のマネジメント
第2回	地域環境経営論	1：環境経営の基礎知識 2：エコプレミアムの可能性
第3回	地域における起業のすすめ　～起業の課題と支援～	1：企業活動と富の創造、現況と課題 2：起業の事例と事業化の課題
第4回	ＮＰＯ活動のマネジメント	1：NPOの基礎知識 2：NPOの設立と運営方法
第5回	コミュニティ・ビジネス論	1：コミュニティ・ビジネスの基礎知識 2：コミュニティ・ビジネスの創造手法
第6回	コミュニティ・マネジメント理論と実践	1：人を動かす理論 2：人に動かされる理論
第7回	コミュニティ・ビジネス事業スキームの作成　その1	・スクーリング（地域マネジメント特論Ａと合同）。 ・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。
第8回	コミュニティ・ビジネス事業スキームの作成　その２	・スクーリング（地域マネジメント特論Ａと合同）。 ・グループによるワークショップ制作物およびプレゼンテーションに対する評価とする。

担当者から一言

講義名	成熟社会デザイン特論							担当教員	上田　洋平
講義コード	1900120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

少子・高齢化、人口減少の時代にあって、これまでの成果を継承しつつ、山積する課題を乗り越えながら、成熟社会における地域・コミュニティのあり方や人びとの生き方をいかに構想し実現していくか、さまざまな観点から議論する。

到達目標

（１）成熟社会の本質について理解し説明できる。
（２）成熟社会における地域・コミュニティのあり方や人びとの生き方を構想し実現するために必要な考え方や知識、方法について理解し説明できる。
（３）さまざまな分野の知見を総合・応用して、成熟社会における地域・コミュニティのあり方や人びとのあり方について、具体的に提案することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標（３）について、期末に課す試験により評価する
レポート課題	６０	到達目標（１）（２）について、授業時に課すレポートの内容により評価する
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	成熟社会デザイン特論							担当教員	上田　洋平
講義コード	1900120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	多世代共創コミュニティ形成の手法	地域共生センター　上田洋平　助教
第2回	成熟社会実現に向けた挑戦	価値総合研究所　目黒義和　主席研究員 地域共生センター　上田洋平　助教
第3回	成熟社会・少子高齢化社会におけるエンドオブライフ	人間看護学部　糸島陽子　教授
第4回	伝統文化の継承	人間文化学部　武田俊輔　講師
第5回	からだに問いかける	人間文化学部　細馬宏通　教授
第6回	近江の地域遺産	人間文化学部　中井均　教授
第7回	若者の現状と＜支援＞	人間文化学部　原未来　准教授
第8回	民俗学から考える成熟社会	人間文化学部　市川秀之　教授
第9回	村落福祉の社会学	人間文化学部　丸山真央　教授
第10回	地域における健康づくり	人間看護学部　小林孝子　准教授
第11回	健康の維持増進と栄養	人下文化学部　奥村万寿美　准教授
第12回	琵琶湖と地域社会	環境科学部　井手慎司　教授
第13回	高齢社会の住環境	人間文化学部　宮本雅子　教授
第14回	成熟社会に向けた多文化共生	人間文化学部　河かおる　准教授
第15回	まとめ　成熟社会のデザイン論	地域共生センター　上田洋平　助教 ディスカッションとレポート作成

担当者から一言

講義名	地域再生学特論							担当教員	上田　洋平
講義コード	1900130	単位数	1	開講期	後期前半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域固有の自然・歴史・文化に根差した地域再生の思想、仕組み、仕掛け（手法）及びそれを担う人材について、滋賀県内各地で現に展開中のナマの取り組みを取り上げ、事例研究により学ぶとともに、各地の取り組みを主導し支えるキーパーソンとの議論を通じて理解を深める。併せて、地域再生を担うリーダー・コーディネーターとしての「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割について議論し学ぶ。

到達目標

（１）自然、歴史、文化の特性や地域の文脈に即して生じる様々な地域課題の概要とその解決の方向性について理解し説明できる。
（２）風土に根差した地域再生の取り組みの具体例についてその仕組みや特徴を分析し紹介できる。
（３）地域再生に取り組む「コミュニティ・アーキテクト（近江環人）」の職能と役割、求められる能力について、個々の具体的事例から抽出し説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	到達目標（１）については、期末試験（筆記式）にり評価する。
レポート課題	40	到達目標（２）については、授業毎に課すレポートにより評価する。
上記以外	30	到達目標（３）については、授業時間内に行うワークショップの成果をもとに評価する。

授業外学習

授業で取り上げる地域やゲスト講師が関わる事業・イベントについて、積極的に訪問したり参加することを薦める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域再生学特論							担当教員	上田　洋平
講義コード	1900130	単位数	1	開講期	後期前半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	総論「地域再生のフレームワーク」	上田洋平
第2回	地域コミュニティを問い直す	ゲスト講師
第3回	中心市街地の再生	ゲスト講師
第4回	中山間地域の再生	ゲスト講師
第5回	都市農村交流による地域再生	ゲスト講師
第6回	地域再生のリーダーシップ	ゲスト講師
第7回	社会投資市場の形成と地域再生	ゲスト講師
第8回	まとめ・ＷＳ・地域再生とコミュニティ・アーキテクト	上田洋平

担当者から一言

講義名	地域イノベーション特論							担当教員	上田　洋平
講義コード	1900140	単位数	1	開講期	後期後半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

国連においても「SDGｓ（持続可能な開発目標）」が掲げられているように、単に開発・成長を目指すだけの時代は終わり、持続（未来）可能性が問われる時代である。限りある資源を活かしながら、人と自然、人と人とがいかに共生し、ともにその可能性を実現しつつ生きていくか。そのための重要なキーワードの一つが「イノベーション」である。

この講義では持続可能な共生社会の構築に必要なイノベーションの手法について、経済、環境、資源と人材等様々な角度から議論する。地域イノベーションという点で言えば、滋賀はそのユニークな事例を有する場所である。そこで、県内各地・各分野で活躍し実績を上げている事業やそれを支える考え方、実践手法等のエッセンスについて当事者が直接紹介するケーススタディの形で学ぶ。

※当講義はWEB開講科目である。

到達目標

（1）地域イノベーションの概念と意義、持続可能な共生社会実現に向けた潮流と展望について理解し説明できる。
（2）地域イノベーションの具体的事例を紹介することができる。
（3）イノベーションの仕掛けと仕組み、イノベーション創発を促す場と条件、イノベーション人材に必要な心構えや技能について理解し説明できる。
（4）地域資源やコミュニティの特性を踏まえたイノベーティブで持続可能な共生社会づくりにつながる事業を提案できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標に示す（1）～（4）については、演習問題（レポート）により評価する。
上記以外		

授業外学習

講義VTR（講師1人につき20分間の講義）を視聴するウェブ講義である。受講生はビデオ視聴ごとに演習問題を解いて提出し、その答案等をもとに採点・成績評価する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域イノベーション特論							担当教員	上田　洋平
講義コード	1900140	単位数	1	開講期	後期後半	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地域イノベーション総論	①－1：地域イノベーションとは何か ①－2：イノベーション創発の場と条件
第2回	地域資源を活かした創エネと市民自治	②－1：地縁を活かした創エネ事業　　講師；松本長治（みどり豊かな清流の郷杉野） ②－2：環境と福祉のイノベーション　　講師：溝口　弘（一社・コナン市民共同発電所プロジェク
第3回	里山・田園イノベーション	③－1：都市とつながる農のイノベーション　講師：石津大輔（針江のんきぃふぁーむ） ③－2：自然が相棒のブランドイノベーション　講師：堀　彰男（せせらぎの郷）
第4回	暮らしをつくる地域イノベーション	④‐１：持続可能な住まいをつくる　講師：清水陽介（上山田どっぽ村） ④‐2：イノベーション＋デザイン　講師：中野優（デザイン・クリエイティブセンター神戸KIITO）
第5回	移住・交流、観光が促す地域イノベーション	⑤－1：空家を活かした観光によるまちづくり　講師：吉井茂人（長浜まちづくり株式会社） ⑤－2：アーティスト・職人との連携による地域づくり　講師：西川唱子（NPO法人結びめ）
第6回	地域まるごとイノベーション	⑥－1：多様なステークホルダーを巻き込む手法 ⑥－2：様々な制度や仕組みの活用の仕方

担当者から一言

講義名	サスティナブルデザイン特論							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900150	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

持続可能な社会や地球環境、その社会・環境において求められる知識や技術、よりよい社会・環境を創造するための知識や技術を学ぶ。
授業は本学教員によるオムニバス形式であり、様々なジャンルにおける基礎知識、最新の動向、最先端の技術、手法について学修する。

到達目標

(1)我が国における地域資源の現状について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
(2)地域資源の活用方法について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
(3)未来を拓く基礎技術について、具体的な例を挙げて概要を説明することができる。
(4)再生可能エネルギーの特徴と近年の動向について説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	サスティナブルデザイン特論							担当教員	鵜飼　修
講義コード	1900150	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	サスティナブルデザイン総論	
第2回	林業	滋賀県における森林バイオマス活用
第3回	里山	日本の原風景としての『里山』に関する知識を学ぶ。
第4回	農業	国土を保全する『持続可能な農業』に関する知識を学ぶ。
第5回	産業	持続可能な産業』の考え方、あり方について学ぶ。
第6回	環境建築デザイン１	建築におけるサスティナブルデザイン、環境共生デザイン
第7回	環境建築デザイン２	建築における木材利用
第8回	生活デザイン１	地域活性化などにおける地域資源活用の手法について学ぶ。
第9回	生活デザイン２	地域資源を活用したデザイン手法について学ぶ。
第10回	未来を拓く基礎技術１	有機・無機材料
第11回	未来を拓く基礎技術２	機械工学
第12回	未来を拓く基礎技術３	電気・電子・情報工学
第13回	再生可能エネルギー１	再生可能エネルギーの特徴、活用手法について学ぶ。
第14回	再生可能エネルギー２	滋賀県のエネルギー政策と県内での取組事例
第15回	サスティナブルデザインの実践	まとめとディスカッション

担当者から一言

講義名	コミュニティ・プロジェクトⅠ							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900160	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域での実践を通じて、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。担当する教員のゼミに所属し、月に1回をめどに指導を受ける。
受講生は、自身の有する地域課題をテーマに、その解決等のプロジェクトを設定し、担当教員の指導を受けながら実践を試みる。授業は前期Ⅰ、後期Ⅱとし、それぞれに報告の機会を設ける。成績評価は、目標管理シートを用いて、プロジェクトの到達目標、自分自身のスキルアップの目標を設定し、成果報告時にゼミ担当教員からの評価を受ける。成果報告の発表でのプレゼンテーション能力も評価に加味される。
ゼミナールの日時は、原則事務局発行のスケジュール表通りとするが、教員と受講生の日程調整により柔軟に対応する。受講生の実践現場への教員の訪問もゼミ指導に含む。

到達目標

(1)地域特性を把握し、プロジェクトを適切に推進することができる。
★詳細は各自の目標管理シートによる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	目標管理シートにおける評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	コミュニティ・プロジェクトⅠ							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900160	単位数	1	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	プロジェクトの目標設定	目標管理シートの作成
第2回	プロジェクト進捗報告	
第3回	プロジェクト進捗報告	
第4回	プロジェクト進捗報告	
第5回	プロジェクト進捗報告	
第6回	成果報告会	
第7回	成果報告会	
第8回	成果報告会	

担当者から一言

講義名	コミュニティ・プロジェクトII							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900170	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

地域での実践を通じて、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。担当する教員のゼミに所属し、月に1回をめどに指導を受ける。
受講生は、自身の有する地域課題をテーマに、その解決等のプロジェクトを設定し、担当教員の指導を受けながら実践を試みる。授業は前期Ⅰ、後期Ⅱとし、それぞれに報告の機会を設ける。成績評価は、目標管理シートを用いて、プロジェクトの到達目標、自分自身のスキルアップの目標を設定し、成果報告時にゼミ担当教員からの評価を受ける。成果報告の発表でのプレゼンテーション能力も評価に加味される。
ゼミナールの日時は、原則事務局発行のスケジュール表通りとするが、教員と受講生の日程調整により柔軟に対応する。受講生の実践現場への教員の訪問もゼミ指導に含む。

到達目標

(1)地域特性を把握し、プロジェクトを適切に推進することができる。
★詳細は各自の目標管理シートによる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	目標管理シートにおける評価

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	コミュニティ・プロジェクトⅡ							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900170	単位数	1	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	プロジェクトの目標設定	目標管理シートの作成
第2回	プロジェクト進捗報告	
第3回	プロジェクト進捗報告	
第4回	プロジェクト進捗報告	
第5回	プロジェクト進捗報告	
第6回	成果報告会	
第7回	成果報告会	
第8回	成果報告会	

担当者から一言

講義名	実践現場体感特別講義Ⅰ							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900180	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

新しい地域社会を切り拓く、地域イノベーションの先進的な取り組み、萌芽的な取り組みの現場を訪問し、実践者からの講義を受け、現場の体感と併せてそのノウハウを修得する。訪問は県外1泊二日、県内1泊二日の2回で8事例程度を学修する。
平成29年度の県外訪問先は、葉っぱビジネスで著名な徳島県上勝町（前期）、岡山県西粟倉村の村落エナジー（後期）などを予定している。
県外はバスをチャーターして訪問する。県内は教員の車等で引率する。視察料、講師謝金、バスチャーター、教員の車の交通費は公費で負担するが、各自の宿泊費、食費は各自での負担となる。
★スケジュールは添付の通り。

到達目標

(1)地域イノベーションの現場について、具体的事例の概要を説明できる。
(2)地域イノベーションの現場について、実践者による実践ノウハウのポイントを説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	各回のレポート×現場数で評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	実践現場体感特別講義Ⅰ							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900180	単位数	1	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	実践現場１	実践現場での実践者による講義
第2回	実践現場２	
第3回	実践現場３	
第4回	実践現場４	
第5回	実践現場５	
第6回	実践現場６	
第7回	実践現場７	
第8回	実践現場８	

担当者から一言

講義名	実践現場体感特別講義 II							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900190	単位数	1	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

新しい地域社会を切り拓く、地域イノベーションの先進的な取り組み、萌芽的な取り組みの現場を訪問し、実践者からの講義を受け、現場の体感と併せてそのノウハウを修得する。訪問は県外1泊二日、県内1泊二日の2回で8事例程度を学修する。
平成29年度の県外訪問先は、葉っぱビジネスで著名な徳島県上勝町（前期）、岡山県西粟倉村の村落エナジー（後期）などを予定している。
県外はバスをチャーターして訪問する。県内は教員の車等で引率する。視察料、講師謝金、バスチャーター、教員の車の交通費は公費で負担するが、各自の宿泊費、食費は各自での負担となる。
★スケジュールは添付の通り。

到達目標

(1)地域イノベーションの現場について、具体的事例の概要を説明できる。
(2)地域イノベーションの現場について、実践者による実践ノウハウのポイントを説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	各回のレポート×現場数で評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

近江環人地域再生学座の受講を申請していること。

履修資格

講義名	実践現場体感特別講義Ⅱ							担当教員	鵜飼　修／上田　洋平
講義コード	1900190	単位数	1	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	実践現場１	実践現場での実践者による講義
第2回	実践現場２	
第3回	実践現場３	
第4回	実践現場４	
第5回	実践現場５	
第6回	実践現場６	
第7回	実践現場７	
第8回	実践現場８	

担当者から一言